

横浜市史資料室所蔵 「関東大震災」画像データ目録の整備

一、画像データの整理作業

二〇一一年（平成二三）年三月一日の東日本大震災以降、横浜の関東大震災や震災復興に関する問い合わせ、画像データの提供依頼、あるいは関連資料の寄贈等が増加している。大きな災害に直面したことで、過去の災害に対する市民の関心は高まっているのだから、そうした需要に応えるためにも、当資料室では、所蔵する画像データの日録整備を順次進めている。

当資料室は前身の横浜市史編集室時代から横浜の現代史に関わる歴史資料を幅広く収集してきた。その対象は文書資料だけでなく、刊行物や地図、写真や絵葉書など多岐に亘っている。そのうち写真や絵葉書については、基本的にスキャナーでデジタルの画像デー



【写真1】写真・絵葉書を収めたファイル

タを作成した後、【写真一】のようなファイルに収め、収蔵庫で保管する仕組みをとっている。過去の風景や事象を記録した写真や絵葉書は、横浜の現代史を視覚的に捉える貴重な手掛りであり、利用者の需要も高い。

さて、関東大震災及び震災復興に関する写真や絵葉書は、諸家文書の中に散見でき、また、写真内容の重複も多いので、一つ一つの被写体を精査し、その情報を抽出しなければならない。責任をもって利用者に提供するためにも、そうした地道な作業が必要不可欠である。今回は諸家文書に収められている絵葉書「大正12. 9. 1. 横浜大震災実況」及び同「東京神田橋筒井盛華堂発行・関東大震災絵葉書」を中心に関連する画像データの一端を紹介したい。

二、「関東大震災」絵葉書の拡大

現在、関東大震災に関する絵葉書は数多く残っており、博物館や図書館、文書館などに保管されているだけでなく、一般の個人宅から見つかる場合も多い。これは震災直後にその惨状を写した絵葉書が回ったためで、罹災地を訪れた見物人や見物人、また、義捐金を集める一つの装置として全国へ拡散していったと考えられる。そうした中には、本所被服廠跡や吉原弁天池、横浜正金銀行前など惨劇の舞台となった場所を写した絵葉書もあり、行政による規制の対象となっていた。震災



【写真2】収蔵庫内に保管されたファイル群

発生から二週間後の一九二三（大正一二）年九月一日、全国の警察を統轄する内務省は出版法第一九条に基づく取締を各警察署に命じ、違反者の摘発に乗り出している。当時の『横浜貿易新報』にも「絵葉書一枚五十銭」（一〇月一日夕刊）や「惨状写真を売る」（一〇月三日夕刊）のように、絵葉書の規制に関する記事が見られる。しかし、厳しい規制ゆえに人々の関心は高く、また、複製・販売する側も大きな利益が得られるため、惨劇を写した写真・絵葉書の流通は跡を絶たなかった。当資料室の画像データの蓄積にもそれらの資料が多分に含まれている。

一方、今回紹介する絵葉書は正規の販売ルートを通じて流通したものと考えられる。次頁の一覧表を参照して頂きたい。【資料群一】と【資料群二】は両方とも「大正12. 9. 1. 横浜大震災実況」とタイトルは同じだ

が、写真の内容・撮影者はそれぞれ異なっており、同じタイトルでも様々な種類の絵葉書が発行されていた。このうち少なくとも後者については、オリジナル写真の撮影者を写真師の岡本三朗と特定することができた。岡本は横浜における報道写真の先駆者で、横浜開港資料館所蔵のガラス乾板に【資料群二】と同様の写真群が収められている。同じ写真は『市史通信』第六号で紹介した前川謙三の写真と共に、渡辺正男編『横浜市復興会誌』（横浜市復興会、一九二七年）に活用され、横浜の関東大震災を視覚的に捉える基礎資料の一つとなっている。また、【資料群三】は固有のタイトルは付されていないが、「東京神田橋筒井盛華堂発行」の印字があり、体裁を整えている。印刷の粗い絵葉書が多い中で、筒井盛華堂の絵葉書は良好なものと言えるだろう。六頁では、ランドマークである吉田橋周辺の状況を中心にそれらの一部を例示した。

テレビもラジオもない時代において絵葉書は災害の視覚的な情報を人々に伝える重要な手段であった。そうした絵葉書の性格を重視しつつ、当資料室は画像データ目録の整備を順次進めていきたい。また、本誌の読者の方で過去の絵葉書をお持ちの方は、ぜひともご一報頂ければ幸いである。

【参考文献】北原糸子編『写真集 関東大震災』（吉川弘文館、二〇一〇年）／同『関東大震災の社会史』（朝日新聞出版、二〇一一年）（吉田律人）

【資料群1】絵葉書「大正12.9.1. 横浜大震災実況」画像データ一覧

通番	資料番号	資料名	撮影時期	撮影場所	被写体
1	34-2886	横浜市街花園橋ヨリ公園ヲ望ム	1923(大正12)年9月	花園橋	電話局新庁舎・露亜銀行
2	34-2887	横浜新棧橋	1923(大正12)年9月	新港埠頭	新港埠頭上屋
3	34-2888	惨憺タル横浜駅	1923(大正12)年9月	横浜駅(2代目駅舎)	横浜駅駅舎・ホーム
4	34-2889	横浜市役所前ヨリ吉田橋	1923(大正12)年9月	豊国橋付近	野澤屋新館・吉田橋
5	34-2890	横浜市山手電車ノトンネル	1923(大正12)年9月	山手トンネル	山手トンネル
6	34-2891	横浜正金銀行惨状	1923(大正12)年9月	横浜正金銀行	横浜正金銀行
7	34-2892	横浜正金銀行附近ノ惨状	1923(大正12)年9月	弁天通り周辺	横浜正金銀行・川崎銀行
8	34-2893	横浜市街海岸通りノ惨状	1923(大正12)年9月	海岸通り	倒壊した洋館の瓦礫
9	34-2894	横浜吉田橋ヨリ馬車道	1923(大正12)年9月	吉田橋	横浜正金銀行・不動貯蓄銀行
10	34-2895	横浜海岸通り惨状	1923(大正12)年9月	海岸通り	焼失した洋館の外壁
11	34-2896	横浜市街ランドホテル附近	1923(大正12)年9月	谷戸橋付近	谷戸橋・ランドホテル
12	34-2897	横浜市海岸通りヨリ棧橋ヲ望ム	1923(大正12)年10月	横浜水上警察署付近	大棧橋・税関監視部
13	34-2898	横浜市街記念会館	1923(大正12)年9月	本町通り・生糸検査所前	開港記念横浜会館
14	34-2899	横浜市街伊勢崎町附近	1923(大正12)年9月	伊勢佐木町	越前屋呉服店
15	34-2900	横浜市街吉田橋附近	1923(大正12)年9月	吉田橋付近	吉田橋・第十五銀行
16	35-2901	横浜市街ノ一部(伊勢佐木町方面)	1923(大正12)年9月	宮崎町付近	野毛坂・野澤屋

※1、左右田宗夫家旧蔵資料。

※2、撮影場所は撮影者の立ち位置、被写体は画像内にある目標物を記した。

【資料群2】絵葉書「大正12.9.1. 横浜大震災実況」画像データ一覧

通番	資料番号	資料名	撮影時期	撮影場所	被写体
1	38-3228	横浜震災地域図	1923(大正12)年9月	—	絵図
2	38-3229	吉田橋ヨリ馬車道通りを望む	1923(大正12)年9月	吉田橋	横浜正金銀行・不動貯蓄銀行
3	38-3230	伊勢佐木町通り	1923(大正12)年9月	吉田橋付近	野澤屋・越前屋呉服店
4	38-3231	山手の居留地	1923(大正12)年9月	元町	火災
5	38-3232	六日間焼け続たる浅野造船所の石油庫と西の橋	1923(大正12)年9月	西之橋付近	西之橋・火災
6	38-3233	港町河岸の大亀裂	1923(大正12)年9月	豊国橋付近	吉田橋・野澤屋
7	38-3234	数万の人々を助けた大岡川	1923(大正12)年9月	吉田橋	指路教会
8	38-3235	陥没せる棧橋	1923(大正12)年9月	横浜水上警察署跡	横浜税関監視部・大棧橋
9	38-3236	尾上町を隔てて市役所を望む(零時五分撮影焼失前)	1923(大正12)年9月	常盤町2丁目	横浜市役所
10	38-3237	市役所の残骸とタッター一台の焼残り電車(御真影奉安)	1923(大正12)年9月	横浜市役所	横浜市役所・市電第126号車
11	38-3238	山下町居留地	1923(大正12)年9月	境町1丁目	開港記念横浜開館
12	38-3239	本町通りの焼跡	1923(大正12)年9月	本町通り	残骸
13	38-3240	尾上町通り	1923(大正12)年9月	大江橋	大江橋・指路教会
14	38-3241	ランドホテル前	1923(大正12)年9月	海岸通り	報時球

※1、名波一家旧蔵資料。

※2、撮影場所は撮影者の立ち位置、被写体は画像内にある目標物を記した。

※3、オリジナル写真の撮影者は写真師の岡本三朗(サブロの写真工場経営)。

【資料群3】絵葉書「[東京神田筒井盛華堂発行・関東大震災絵葉書]」画像データ一覧

通番	資料番号	資料名	撮影時期	撮影場所	被写体
1	35-2902	横浜吉田橋附近の惨状	1923(大正12)年9月	吉田橋付近	吉田橋
2	35-2903	横浜正金銀行附近の惨状	1923(大正12)年9月	本町4丁目交差点附近	横浜正金銀行
3	35-2904	横浜市内地裂の惨状	1923(大正12)年9月	山下町・派大岡川護岸	市電
4	35-2905	横浜オリエンタルホテル焼失の惨状	1923(大正12)年9月	山下町	オリエンタルホテル
5	35-2906	横浜市税関内焼失の惨状[写真は野毛山から関内を望む]	1923(大正12)年9月	野毛山	横浜正金銀行・野毛坂
6	35-2907	横浜ステーション火災の惨状	1923(大正12)年9月	横浜駅付近	石油タンクの黒煙・列車
7	35-2908	横浜豊国橋の惨状	1923(大正12)年9月	豊国橋	豊国橋・横浜市役所
8	35-2909	横浜市大震災後の全景	1923(大正12)年9月	野毛山不動尊	神奈川県農工銀行

※1、左右田宗夫家旧蔵資料。

※2、撮影場所は撮影者の立ち位置、被写体は画像内にある目標物を記した。

横浜市史資料室所蔵「関東大震災」画像データの紹介—吉田橋周辺を中心に—



①港町河岸の大亀裂(資料群2、資料番号:38-3233)
豊国橋付近から伊勢佐木町・吉田橋方面を望む。



②横浜市役所前ヨリ吉田橋(資料群1、資料番号:34-2889)
左の写真①とほぼ同じアングルから撮影。



③横浜吉田橋附近の惨状(資料群3、資料番号:35-2902)
伊勢佐木警察署跡から尾上町方面を望む。



④横浜市街吉田橋附近(資料群1、資料番号:34-2900)
吉田橋西岸から対岸の馬車道通りを望む。



⑤吉田橋より馬車道通りを望む(資料群2、資料番号:35-2902)
吉田橋東岸から馬車道通りを撮影。中央のドームは横浜正金銀行。



⑥横浜吉田橋ヨリ馬車道(資料群1、資料番号:34-2894)
左の写真⑤とほぼ同じアングルから撮影。



⑦数万人の人々を助けた大岡川(資料群2、資料番号:35-3234)
吉田橋の中央から桜木町方面を望む。



⑧伊勢佐木町通り(資料群2、資料番号:38-3230)
吉田橋西岸から伊勢佐木町方面を望む。